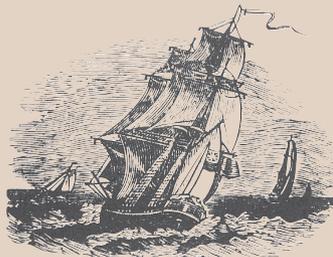


羅針盤



皮膚科医の「今、そして未来へ……」を考える

大路 昌孝

Masataka Oji

大路皮膚科医院 院長

日本臨床皮膚科医会(日臨皮)という組織があることはご存知のことと思う。日本皮膚科学会(日皮)に所属する医師のうち、病院勤務医や開業医を中心として構成される組織である。日皮が皮膚科学の発展と皮膚科医の育成を目指す組織であるとすれば、日臨皮は臨床現場で働く皮膚科医が診療技術を高め、皮膚科医として生き残れる医療制度を守るための組織である。日皮と協力して毎回診療報酬改



定に向けての要望書を作成し、日本医師会や厚生労働省に提出している。また、11月12日を「皮膚の日」と定め、全国で一般向け講演会や皮膚の無料検診を行ったり、皮膚科医も外に出ようと在宅医療、学校保健への参加を推進する活動を行ったりもしている。その活動の一環として本年の5月29日(土)、30日(日)に第26回日臨皮総会・臨床学術大会をホテルグランパシフィック LE DAIBAにおいて、私が会頭として開催させていただいた。1,082名という多数の方々に参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができた。会頭として心より御礼申し上げたい。

日臨皮の問題点の一つに、会員数不足(日皮会員数との比較)がある。日皮会員数10,984名に対し、日臨皮会員数は4,116名であり37.47%の入会率である。これは大学病院を含めた病院勤務の先生方の入会率が低いと考えられる。東京都では日皮2,171名に対し、日臨皮651名、29.99%、大学や病院の数が多いためその差

は大きくなっている。将来の活動を考えれば大学や病院の、とくに若い先生方の日臨皮への参入が必要であることは言を俟たない。

それを踏まえて今回の学術展示は各大学に協力を依頼した。若い先生方に参加いただき、日臨皮の活動や会がどのようなものか、まず知ってほしいと考えたのである。さらに雑誌 Visual Dermatology に特集号を組んでもらい、その学術展示

のなかから選抜して掲載することにした。これも初めての試みだと思う。快く了承いただいた学研メディカル秀潤社の編集室の方々や編集委員の先生方には感謝申し上げます。展示に参加する先生方の励みになった。また、見る側もただ眺めるだけでなく、投票によって学術展示に参加することでモチベーションを上げていただく狙いでもあった。投票率を上げるために投票用紙を記念品の引き換え券とし、投票しないと記念品はもらえないようにもしてみた。投票数は547であった。

学術展示には全国から49演題ものエントリーをいただいた。充実した内容の力作ぞろいであった。すべてを載せたかったのだが、残念ながら誌面の都合上30演題前後を選ぶこととなった。この特集号で今回の日臨皮総会の雰囲気の片鱗を感じていただければ幸いである。

日臨皮総会は来年(2011年)が大阪、再来年(2012年)は博多で開催予定である。是非、参加して日臨皮の活動へのご理解とご協力をお願いしたい。